

森 征一教授略歴

昭和一八年（一九四三年）六月八日

北海道室蘭市に出生

昭和四二年（一九六七年）三月

慶應義塾大学法学部法律学科卒業

昭和四五年（一九七〇年）三月

慶應義塾大学大学院法学研究科修士課程（公法学専攻）修了

昭和四五年（一九七〇年）四月

慶應義塾大学法学部助手

昭和四七年（一九七二年）十一月

イタリア・ローマ大学に留学（イタリア政府給費留学生として）（昭和四九年一月まで）

昭和五一年（一九七六年）三月

一橋大学大学院法学研究科博士課程（公法学専攻）単位取得退学

昭和五一年（一九七六年）四月

慶應義塾大学法学部専任講師

昭和五四年（一九七九年）四月

慶應義塾大学法学部助教

昭和六〇年（一九八五年）一〇月

ブラジル・サンパウロ大学留学（国際交流基金派遣講師として）（昭和六一年九月まで）

昭和六三年（一九八八年）四月

慶應義塾大学法学部教授

平成三年（一九九一年）四月

イギリス・ロンドン大学留学（慶應義塾大学派遣留学生として）（平成五年三月まで）

平成七年（一九九五年）四月

慶應義塾大学学生総合センター就職部門部長を兼務（平成一一年三月まで）

平成一二年 (二〇〇〇年) 四月

慶應義塾大学学生総合センター長・学生部門部長を兼務 (平成一三年九月まで)

平成一三年 (二〇〇一年) 一〇月

慶應義塾大学法学部長・慶應義塾大学大学院法学研究科委員長・慶應義塾理事を兼務 (平成一七年六月まで)

平成一七年 (二〇〇五年) 七月

慶應義塾常任理事 (現在にいたる)

その間、平成一二年 (二〇〇〇年) から法文化学会理事長を務める (平成一六年まで)

森 征一教授主要業績

【著 書】

- 『満場一致と多数決——ものの決め方の歴史』(利光・森・曾根共著)
 『法と正義のイコノロジー』(森・岩谷共編著)
 『イタリアの政治』(馬場・岡沢編、共著)
 『福澤諭吉の法思想』(安西・岩谷・森共編著)
 『概説 西洋法制史』(勝田・森・山内共編著)
 『法文化としての租税』(編)
 『近世・近代ヨーロッパの法学者たち』(勝田・山内編、共著)

【翻 訳】

- 『イタリア少年裁判所法(少年法改正資料一二号)』(宮澤・森共訳)
 ビエロ・カラマンドレーイ著『訴訟と民主主義』(小島・森共訳)

- | | |
|-----------|-------|
| 日本経済新聞社 | 一九八〇年 |
| 慶應義塾大学出版会 | 一九九七年 |
| 早稲田大学出版部 | 一九九九年 |
| 慶應義塾大学出版会 | 二〇〇二年 |
| ミネルヴァ書房 | 二〇〇四年 |
| 国際書院 | 二〇〇五年 |
| ミネルヴァ書房 | 二〇〇八年 |
| その他 | |

- | | |
|---------|-------|
| 法務省刑事局 | 一九七二年 |
| 中央大学出版部 | 一九七六年 |

ピエロ・カラマンドレイ著『裁判官に捧げる頌詞——一弁護士士の訴訟観（二—七完）』（山下・松浦・森・森共訳）

『Law School』, No. 31-39 一九八一年

ネルソン・ハナダ「ブラジル法、とくに訴訟法の形成およびサンパウロ州の裁判組織についての覚書（ブラジル法研究 1）」（森・ハラダ共訳）『法学研究』第六一卷第一号（二〇〇—一二頁）一九八八年

カズオ・ワタナベ「ブラジル消費者保護法の制定について」（森・オガサワラ・ハラダ共訳）

『法学研究』第六五巻第一号（三四—三五一頁）一九九二年

ダルモ・デ・アブレウ・ダラーリ「人権のための憲法——一九八八年ブラジル新憲法の歴史的意義」

『法学研究』第六七巻第二号（二一五—二二二頁）一九九四年

「ブラジル臓器移植法」〔邦訳〕（森・二宮共訳）

『法学研究』第七〇巻第一〇号（一〇五—一一四頁）一九九七年

アンジェロ・ピエロ・セレーニ著『イタリアにおける国際法の歩み』（一）（森・大森監訳）

『法学研究』第七〇巻第一二号（二二九—二七二頁）一九九七年

アンジェロ・ピエロ・セレーニ著『イタリアにおける国際法の歩み』（二）（森・大森監訳）

『法学研究』第七二巻第三号（七三—九九頁）一九九八年

【論文】

Appunti sulla Vita di Alessandro Paternostro, Giureconsulto Italiano dell'Impero Giapponese

Keio Law Review, No. 1, pp. 81-107 一九七五年

「山本謙三訳 英人參駝斯註『雷斯知尼安帝法典』（全二十冊）をめぐって」（研究ノート）

『法学研究』第四八巻第三号（四五—五八頁）一九七五年

「中世イタリアの都市コムーネと条例制定権（ius statuendi）理論（一—四・完）」

- 『法学研究』第四九卷第八—十一号 一九七六年
「司法省お雇いオランダ人アダム・ラパールと「公証人規則草按」手塚豊教授退職記念論文集『明治法制史・政治史の諸問題』（九五七—九九四頁） 慶應通信 一九七七年
- Sulla "Potestas Statuendi" Comunale nell'Italia Medievale
Keio Law Review, 2, pp. 73-98 一九七八年
- 「司法省お雇いイタリア人アレックスサンドロ・パテルノストロ来日の経緯」
『法学研究』第五三卷第十二号（二六五—二八四頁） 一九八〇年
- 「バルトルス・サッソフェラート「条例衝突理論」概観——《中世イタリア法学 Mos Italicus》研究序説」
『法学研究』第五五卷第三号 一九八二年
- 「中世イタリアの都市社会における決定方式——『中世イタリア法学』の多数決理論研究への序説として」
『慶應義塾創立一二五周年記念論文集・法学部法律学関係』（三〇九—三二七頁） 一九八三年
- 「弁護士 原田敬吾とバビロン学会の設立」
『近代日本研究』（慶應義塾福澤研究センター）第四卷（一六一—一七九頁） 一九八七年
- 「「モス・イタリクス Mos Italicus」の法学思想——中世ローマ法学の正義の学としての側面」
『法学研究』第六一卷第六号（一一三—一六頁） 一九八八年
- 「解釈の学としての中世ローマ法学の基本思想——「モス・イタリクス Mos Italicus」研究序説」
『法学研究』第六二卷第十二号（一三五—一五二頁） 一九八九年
- 「中世イタリアの都市条例における解釈の禁止規定をめぐって——中世ローマ法学の解釈の学としての側面」
『慶應義塾大学法学部法律学科開設百年記念論文集・法律学科篇』（二五七—二七五頁） 一九九〇年
- 「司法省お雇い外国人 A・バテルノストロの観た明治の日本——『日本についての覚書 第一回』紹介」
『法学研究』第六四卷第一号（一一—三二頁） 一九九一年
- 「バルトルスの慣習法理論における「同意」（序説）——イタリア中世都市国家の立法主権との関連で」

- 「パテルノストロと条約改正」 『法学研究』第六七卷第一号（二—二四頁） 一九九四年
- 「中世イタリア都市社会における「正義」のイメージ——A・ロレンツェッティ作『善政のアレゴリー』を中心として」 『法学研究』第六九卷第一号（四三—六四頁） 一九九六年
- 「バルトルスの法学観——ヨーロッパ中世法学の理解のために」 『法学研究』第六九卷第二号（一五三—一九一頁） 一九九六年
- 「明治政府お雇い法律顧問パテルノストロと伊学協会」 『法学研究』第七〇卷第三号（一—四一頁） 一九九七年
- 「中世ローマ法学者の法解釈論」 『日伊文化研究』第三六号（二五—三一頁） 一九九八年
- 「ロミオとジュリエットの悲恋——中世イタリアの都市国家と家族の視点から」 『法学研究』第七一卷第三号（二—二〇頁） 一九九八年
- 『教養論叢』第一二三号（二一—三八頁） 二〇〇五年
- その他

【資料】

- 「安達峰一郎関係資料目録および略年譜（森・豊島 監修）」 『法学研究』第七二卷第七号（五七—九九頁） 一九九九年
- 「帝大生・安達峰一郎の「法学」ノート——『法律講義案集』の伝える明治中期法学教育」（森・岩谷 監修、法文化研究会） 『法学研究』第七三卷第一〇号 二〇〇〇年

【その他】

（辞典）

『ポ和・和ポ法律用語集』

サンパウロ日本語普及センター 一九八七年

『ポ日法律用語集』（森・二宮共著）

有斐閣 二〇〇〇年

（文献目録）

『慶應義塾図書館蔵 花井卓蔵文書目録』（森・岩谷・加藤共編）

慶應義塾大学三田メディアセンター 一九九七年

（書評）

マリオ・G・ロサーノ著 「三人のヨーロッパ人法律顧問と近代日本の誕生」

『法学研究』第四七卷第一一号（二〇二一・一〇七頁） 一九七四年

ジュゼッペ・エルミニ著 「教会領における普通ローマ法と特別法」

『法学研究』第五〇卷第二号（六二一・六七頁） 一九七七年

V・ピエルジョヴァンニ著 「ジェノヴァ法史講義——中世」

『法学研究』第五七卷第六号（二一三—二一七頁） 一九八四年

その他